

# ALT(外国語指導助手)を全中学校に配置！

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るために、ALT(外国語指導助手)の活用を推進しています。

平成24年度からは、ALTの人数も昨年度の4名から8名に倍増。全8中学校に年間を通して常駐できる体制をとっています。

ALTは、英語の授業はもちろんのこと、学校行事や給食、清掃活動などの日常生活の時間を生徒とともに過ごし、交流を深めています。生徒一人ひとりとALTとのふれあいも一層増え、英語をより身近に感じられる環境が整っています。



南部中 スキップ先生



東部中 パン先生



八木中 アンディ先生



常盤松中 ラリー先生



南流山中 ボブ先生



北部中 ベンジャミン先生



東深井中 トム先生



西初石中 ギル先生

# 教育ながれやま

第54号  
編集発行 流山市教育委員会  
TEL 04(7158)1111

昨年まで「まごころ」として発行しておりました。

## いざは普段 ~子どもたちにできること、できないこと~



流山市教育委員会教育長 後田 博美

今年の市内小中学校陸上競技大会は、例年と異なり、小学校は、放射能の除染が終わった八木南小学校のグラウンドを借用して、また、中学校は、野田市の陸上競技場をお借りして開催いたしました。大会当日には、大きな事故や混乱もなく実施できましたこと、関係者の皆様のご尽力や保護者の方々のご協力によるものと感謝しております。

このような中でも、新記録が樹立されたり、多くの選手が自己ベストを更新したり、選手の活躍が見られました。また、小中学校が、別に取り組んだため、多くの選手の出場機会が増えたことも、良かったと思います。

さらに小学校は、15校が一堂に会して、競技だけでなく、応援の態度や選手の移動が、とてもきちんとできていたこと、中学校は、自分の部活での練習成果が確かめられたことなども、大きいと感じました。さまざまな制約のある中で、工夫をしながら、よりよい取り組みに変えることの大切さを感じました。

さて、昨今、児童生徒が、交通事故に巻き込まれるなど、多くの事件が発生しました。その度に、学校や警察はもとより、流山市防犯パトロール隊や地域の見守り隊、登下校を見守ってくださるボランティアの方々、保護者の皆様にも多くのご尽力をいただき、深く感謝しております。

何の前触れもなく発生する不測の事態には、日頃からの指導やすぐに対応できる体制づくりが大きく、未然防止や抑止力、すなわち、「いざ」という時、大きな力を発揮することは広く知られています。事前の危機管理(リスク・マネジメント)の第一は、「自分の命は、自分で守る」ことだと考えますが、経験の少ない子どもたちの場合、自分の力だけで、防ぐには限界もあります。

子どもたちを、悲しい被害から救う手立ては、こういった地道な取り組みが継続的に行われることが最も大切な方法ではないかと考えています。

これからも、学校や保護者、地域が共に連携して事後の危機管理(クライシス・マネジメント)体制づくりを強く願ひ、ともに取り組んでいきたいと思っています。

また、教育委員会と学校は、流山市の安心安全メールとともに、緊急メールシステムで、早い情報の共有ができるようになっており、児童・生徒の安全や安心のために、活用していきたいと思っています。

こういった数々の取り組みは、今までの取り組みの中から構築されているものが大きく、これがさまざまな状況に対応できる態勢を創り出していることを有り難く、そして心強く感じた次第です。

## 「地域の安全は地域で守る」

~鯉ヶ崎小学校お守り隊(鯉ヶ崎小スクールガードボランティア)の取り組み~



鯉ヶ崎小学校区には、「鯉ヶ崎小学校お守り隊」というボランティア団体があります。平成17年の相次ぐ児童が被害者となる事件発生を受け、校長とPTA会長の「緊急アピール」が発表され、「学校内の安全は教師が守る」「学校外の安全は地域の方々や保護者が守る」「地域の安全なくして子供の安全はない」これがその内容です。これを機に「鯉ヶ崎自治会」「三本松自治会」「鯉ヶ崎団地自治会」「南流山1丁目自治会」「南流山東町会」「サンハイツ南流山自治会」の6自治会、鯉ヶ崎小学校PTA、鯉ヶ崎小学校による「お守り隊」が結成されました。

「できる人が、できる時に、無理なく、楽しく」を基本姿勢に活動しています。緑色のベスト、帽子、名札を着用し、児童と共に歩く「同行パトロール」、交通の要所に立つ「定点パトロール」をしています。毎日のように活動していますので、児童と顔なじみになり、名前や家の場所がわかるだけでなく、「お守り隊ありがとうございます」という1年生からの言葉や、転校する児童からお礼の手紙をもらうなど、心と心のつながりも生まれています。

活動内容は「不審者対策」をベースに「交通災害防止」から「危険箇所、自然災害から守る」というように進化してきています。関係機関に安全に関する「提案」も積極的に実行されています。また、学校の行事にも参加しており、「昔の遊び」を教えることもあります。

複数の自治会、学校、PTAといった大所帯ですが、コーディネーターを中心にまとめ、組織的な活動が展開されている「お守り隊」です。

## 石川県能登町との姉妹都市交流

今年1月に姉妹都市となった能登町と流山市の子どもたちとの交流が行われます。

7月24日には流山市生涯学習センターで能登町の児童29名と流山市の児童15名が未来芸術家 遠藤 一郎講師の指導のもと、大凧を制作する「未来大凧をみんなでつくろう！」が開催されます。

7月31日～8月3日に行われる能登の自然体験ツアーは今年7回目となります。4年生～6年生の児童が参加し、黒い瓦に白い壁の村並みが美しい春蘭の里で、農家での宿泊や能登の伝統行事等を体験します。

また、9月5日には、能登町立小中学校2年生19名が修学旅行を機に北部中学校を訪れ、交流を図ります。昭和初期からの能登町との縁が、世代を超えて受け継がれる交流として発展していくことを期待しています。

## 流山子ども専用 いじめホットライン

04-7150-8055

つらいこと いやなこと こまったら  
ひとりで悩まないで!!

「いじめ」のことや友だちのことやいやなことがあったら、電話してね! 相談員の人と話聞いてくれます。

毎日 13:00~21:00

21:00は休務電話に転送し、できる限りの対応をします。



いじめでも、たくさんのお力、この電話で話を聞いてもらっています。どうしようか、まよった時は、ぜひ相談してください。